

第 4 期中期計画の指標について

中期計画	評価指標	備 考
<p>(基本的な考え方)</p> <p>本学は、第 3 期中期計画期間において、教育・研究活動が地域貢献と融合し、大学と地域がウィンウィンの関係となるような好循環を創出する“大地共創”の確立に取り組んできたところであるが、今後は、地方創生に対する大学への期待がますます高まる中、これからの予測不可能な時代において「地域貢献型大学」としての存在感を高めていく必要がある。</p> <p>このため、「新たな時代を地域とともに」をキーワードに、DX や GX 等、時代や地域のニーズに即した人材育成をはじめとする「山口県立大学将来構想」の実現を通じて、地域と共に歩み続け、地域と共に未来を切り拓いていく大学となるため、中期目標に沿って、ここに中期計画を定める。</p> <p>※大地共創（大学と地域の共創）</p> <p>山口県立大学と地域が一体となって教育・研究活動を進め、地域の人材、地域の文化、地域の生活において新しい価値を創造すること。(また、樹木が大地に根を張るように、大学が深く地域に根を張っていくというイメージも重ね合わせる。)</p> <p>第 1 中期計画の期間 中期計画の期間は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 12 年 3 月 31 日までの 6 年間とする。</p>		

中期計画	評価指標	備 考																				
<p>第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 社会情勢の変化や地域のニーズを踏まえた大学改革</p> <p>【1】学修者中心の教育を促進するため、基盤教育をなす機構を整備し、基盤教育から学部専門教育、大学院教育までの教育改革・教育推進体制や各部門やセンター等との連携体制を一元的に管理する体制構築に取り組む。</p> <p>【2】全学並びに各学部の教育目標に沿った人材が育成されるよう、学部学科の履修モデルに沿った学修指導を行う。また、1年生全員が履修する課題解決型プロジェクト「やまぐち未来デザインプロジェクト」の教育成果や教育効果を学外にわかりやすく発信する。</p> <p>【3】各学部学科において、学生に地域社会で活躍する人材に必要な専門的知識を身に付けさせるため、学修者中心のきめ細かい専門教育を着実に実施する。</p>	<p>【1-1】基盤教育機構を整備し、基盤教育から学部専門教育、大学院教育まで学修者中心の視点をふまえて一元的にマネジメントする体制を構築する。</p> <p>【2-1】各学部学科の履修モデルに沿って履修した学生の比率を80%以上にする。</p> <p>【2-2】「やまぐち未来デザインプロジェクト」の教育成果を毎年1回以上、様々な手法で発信する。</p> <p>【3-1】各国家試験や検定等において、目標とした合格率を達成する。</p>	<p>【1-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 515 2083 683"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>学修者中心の教育促進のため、体制整備を行うとともに、必要な見直しを行い、体制の充実を図る。</td> </tr> </table> <p>【2-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 758 2083 925"> <tr> <td>現状値</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>科目選択は学生の主体的な学びに繋がるものであることから、選択の余地を残し、80%とした。</td> </tr> </table> <p>【2-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1000 2083 1168"> <tr> <td>現状値</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>ウェブサイトや学外での発表を検討中</td> </tr> </table> <p>【3-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1195 2083 1362"> <thead> <tr> <th>試験・検定（目標値）</th> <th>合格率等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語、中国語、韓国語検定(※1)</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション作成検定3級(※2)</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>統計検定4級・ITパスポート・</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table>	現状値	—	設定理由	学修者中心の教育促進のため、体制整備を行うとともに、必要な見直しを行い、体制の充実を図る。	現状値	なし	設定理由	科目選択は学生の主体的な学びに繋がるものであることから、選択の余地を残し、80%とした。	現状値	なし	設定理由	ウェブサイトや学外での発表を検討中	試験・検定（目標値）	合格率等	英語、中国語、韓国語検定(※1)	80%	プレゼンテーション作成検定3級(※2)	50%	統計検定4級・ITパスポート・	30%
現状値	—																					
設定理由	学修者中心の教育促進のため、体制整備を行うとともに、必要な見直しを行い、体制の充実を図る。																					
現状値	なし																					
設定理由	科目選択は学生の主体的な学びに繋がるものであることから、選択の余地を残し、80%とした。																					
現状値	なし																					
設定理由	ウェブサイトや学外での発表を検討中																					
試験・検定（目標値）	合格率等																					
英語、中国語、韓国語検定(※1)	80%																					
プレゼンテーション作成検定3級(※2)	50%																					
統計検定4級・ITパスポート・	30%																					

中期計画	評価指標	備 考																																										
		情報教員免許等		社会福祉士	70%																																							
		精神保健福祉士	85%	看護師	100%																																							
		保健師	100%	助産師	100%																																							
		管理栄養士	100%	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1440 566 1635 606">現状値</th> <th data-bbox="1635 566 1848 606">試験、検定</th> <th data-bbox="1848 566 1960 606">現状値</th> <th data-bbox="1960 566 2098 606">全国平均 (R2-4 平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1440 606 1635 662"></td> <td data-bbox="1635 606 1848 662">英語、中国語、韓国語検定</td> <td data-bbox="1848 606 1960 662">45%</td> <td data-bbox="1960 606 2098 662">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 662 1635 702"></td> <td data-bbox="1635 662 1848 702">プレゼン作成検定</td> <td data-bbox="1848 662 1960 702">—</td> <td data-bbox="1960 662 2098 702">(非公表)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 702 1635 742"></td> <td data-bbox="1635 702 1848 742">統計検定 4 級等</td> <td data-bbox="1848 702 1960 742">—</td> <td data-bbox="1960 702 2098 742">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 742 1635 782"></td> <td data-bbox="1635 742 1848 782">社会福祉士</td> <td data-bbox="1848 742 1960 782">69.1%</td> <td data-bbox="1960 742 2098 782">56.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 782 1635 821"></td> <td data-bbox="1635 782 1848 821">精神保健福祉士</td> <td data-bbox="1848 782 1960 821">81.8%</td> <td data-bbox="1960 782 2098 821">74.5%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 821 1635 861"></td> <td data-bbox="1635 821 1848 861">看護師</td> <td data-bbox="1848 821 1960 861">98.6%</td> <td data-bbox="1960 821 2098 861">94.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 861 1635 901"></td> <td data-bbox="1635 861 1848 901">保健師</td> <td data-bbox="1848 861 1960 901">100.0%</td> <td data-bbox="1960 861 2098 901">94.7%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 901 1635 941"></td> <td data-bbox="1635 901 1848 941">助産師</td> <td data-bbox="1848 901 1960 941">97.0%</td> <td data-bbox="1960 901 2098 941">98.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1440 941 1635 981"></td> <td data-bbox="1635 941 1848 981">管理栄養士</td> <td data-bbox="1848 941 1960 981">95.6%</td> <td data-bbox="1960 941 2098 981">90.5%</td> </tr> </tbody> </table>	現状値	試験、検定	現状値	全国平均 (R2-4 平均)		英語、中国語、韓国語検定	45%	—		プレゼン作成検定	—	(非公表)		統計検定 4 級等	—	—		社会福祉士	69.1%	56.0%		精神保健福祉士	81.8%	74.5%		看護師	98.6%	94.2%		保健師	100.0%	94.7%		助産師	97.0%	98.3%		管理栄養士	95.6%	90.5%
現状値	試験、検定	現状値	全国平均 (R2-4 平均)																																									
	英語、中国語、韓国語検定	45%	—																																									
	プレゼン作成検定	—	(非公表)																																									
	統計検定 4 級等	—	—																																									
	社会福祉士	69.1%	56.0%																																									
	精神保健福祉士	81.8%	74.5%																																									
	看護師	98.6%	94.2%																																									
	保健師	100.0%	94.7%																																									
	助産師	97.0%	98.3%																																									
	管理栄養士	95.6%	90.5%																																									
		設定理由 (現状値があるもの) 基本的に R2-4 平均を参考に設定。 精神保健福祉士については、受験者数が年 10 数人程度と少数であり合格率の変動が大きいため、10																																										

中期計画	評価指標	備 考								
<p>【4】基盤教育において各学科の専門を踏まえた内容の英語教育を行い、専門分野における国際性や国際コミュニケーション力を強化する。</p> <p>各学部・大学院の特色に応じた教育の国際化を図り、地域社会の国際化への対応を進めるため、ASEANやオセアニア地域等における新たな大学間交流の創出や、既存の学術交流協定先等との関係強化に取り組む。</p>	<p>【4-1】TOEIC500 点以上を取得する 1 年生を 50%以上にする。(※R9-11 平均で評価)</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1480 231 2098 802"> <p>年間平均 81.8%から判断 (現状値がないもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語、中国語、韓国語検定は、大多数の学生の達成を目標とし、現状から毎年5%程度ずつの向上を目指す。 プレゼンテーション作成検定は、学科の教育成果として半数の取得を目指す。 統計検定等は、対象となる学科が未設置であることから、最低でも30%とし、学生の検定・資格取得状況を確認して、漸次より高い目標を設定していく。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1480 802 2098 874"> <p>【4-1】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1480 874 1626 1078">現状値</td> <td data-bbox="1626 874 2098 1078"> <p>なし <参考：R4 学科別平均点(12 月時点)> 国際 574、文創 435、社福 427、看護 499、栄養 472</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1480 1078 1626 1362">設定理由</td> <td data-bbox="1626 1078 2098 1362"> <p>TOEIC 実施団体によると、TOEIC470 点は「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」レベルとされており、これを上回る 500 点を 1 年生の半数が目指すレベルとした。</p> </td> </tr> </table>	<p>年間平均 81.8%から判断 (現状値がないもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語、中国語、韓国語検定は、大多数の学生の達成を目標とし、現状から毎年5%程度ずつの向上を目指す。 プレゼンテーション作成検定は、学科の教育成果として半数の取得を目指す。 統計検定等は、対象となる学科が未設置であることから、最低でも30%とし、学生の検定・資格取得状況を確認して、漸次より高い目標を設定していく。 		<p>【4-1】</p>		現状値	<p>なし <参考：R4 学科別平均点(12 月時点)> 国際 574、文創 435、社福 427、看護 499、栄養 472</p>	設定理由	<p>TOEIC 実施団体によると、TOEIC470 点は「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」レベルとされており、これを上回る 500 点を 1 年生の半数が目指すレベルとした。</p>
<p>年間平均 81.8%から判断 (現状値がないもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語、中国語、韓国語検定は、大多数の学生の達成を目標とし、現状から毎年5%程度ずつの向上を目指す。 プレゼンテーション作成検定は、学科の教育成果として半数の取得を目指す。 統計検定等は、対象となる学科が未設置であることから、最低でも30%とし、学生の検定・資格取得状況を確認して、漸次より高い目標を設定していく。 										
<p>【4-1】</p>										
現状値	<p>なし <参考：R4 学科別平均点(12 月時点)> 国際 574、文創 435、社福 427、看護 499、栄養 472</p>									
設定理由	<p>TOEIC 実施団体によると、TOEIC470 点は「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」レベルとされており、これを上回る 500 点を 1 年生の半数が目指すレベルとした。</p>									

中期計画	評価指標	備 考																
<p>(2) デジタル化推進人材の育成</p> <p>【5】全学でデータサイエンスのリテラシーレベルを修学させるとともに、文部科学省「地域活性化人材育成事業（SPARC）」及び「大学・高専機能強化支援事業」を活用して令和7年度に国際文化学部の新編、情報社会学科（仮称）の新設を行い、デジタル化推進人材育成の中心とする。また、社会福祉学部及び看護栄養学部においては各専門分野や地域社会の現場のニーズを踏まえたデジタル化推進人材育成を行う内容を含んだ科目や取組を増やす。さらに、大学院については地域ニーズへの対応やデジタル化推進人材の育成等に向けた再編を行う。</p>	<p>【4-2】 ASEANやオセアニア地域を含めた学術交流協定先等との教員・学生の交流・教育プログラム数や取組等件数を10件にする。</p> <p>【5-1】「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたカリキュラムを修了した1年生を、1年次終了時点で毎年90%以上にする。（※R9-11 平均で評価）</p> <p>【5-2】 令和7年度に国際文化学部の新学科を新設し、SPARC 教育プログラムを土台とした3学科体制を整備する。</p> <p>【5-3】 全ての学科で、必要に応じたより専門性の高いDS・DX 教育の内容を取り入れた、新たな科目や取組を38件実施する。</p>	<p>なお、現在はTOEIC 学内テスト（IPテスト）を実施しているが、実施方法は再検討することから現状値なしとした。</p> <p>【4-2】</p> <table border="1" data-bbox="1478 475 2080 603"> <tr> <td>現状値</td> <td>5 件（R5）</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>各学科、大学院において1件以上の増を目指す。</td> </tr> </table> <p>【5-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 675 2080 882"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>1年生の段階で、ほぼすべての学生に、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し活用する基礎的な能力の習得を目指す。</td> </tr> </table> <p>【5-2】</p> <table border="1" data-bbox="1478 954 2080 1082"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>学部再編を計画どおり実施するとともに、教育内容の充実を図る。</td> </tr> </table> <p>【5-3】</p> <table border="1" data-bbox="1478 1153 2080 1361"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>すべての学科において、専門分野でデータサイエンスを応用できるよう、デジタル人材育成に取り組む。</td> </tr> </table>	現状値	5 件（R5）	設定理由	各学科、大学院において1件以上の増を目指す。	現状値	—	設定理由	1年生の段階で、ほぼすべての学生に、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し活用する基礎的な能力の習得を目指す。	現状値	—	設定理由	学部再編を計画どおり実施するとともに、教育内容の充実を図る。	現状値	—	設定理由	すべての学科において、専門分野でデータサイエンスを応用できるよう、デジタル人材育成に取り組む。
現状値	5 件（R5）																	
設定理由	各学科、大学院において1件以上の増を目指す。																	
現状値	—																	
設定理由	1年生の段階で、ほぼすべての学生に、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し活用する基礎的な能力の習得を目指す。																	
現状値	—																	
設定理由	学部再編を計画どおり実施するとともに、教育内容の充実を図る。																	
現状値	—																	
設定理由	すべての学科において、専門分野でデータサイエンスを応用できるよう、デジタル人材育成に取り組む。																	

中期計画	評価指標	備 考				
<p>(3) 子ども・子育て支援の取組の充実</p> <p>【6】 幼児教育・保育の現場のニーズに応じた人材育成に向けて、子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組強化や、県立大学の学部構成等の特色や強みを活かした幼稚園教諭・保育士の養成学科やコースの設置に係る検討を踏まえた教育の充実に取り組む。</p>	<p>【5-4】 SPARC 教育プログラムの専門教育履修者の満足度調査で「満足」等と回答した学生の割合を 90%にする。</p>	<p>【5-4】</p> <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>学生の満足度により SPARC 教育の成果を測る。なお、調査は R7 開始の正課科目に対する学生調査による。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	学生の満足度により SPARC 教育の成果を測る。なお、調査は R7 開始の正課科目に対する学生調査による。
	現状値	—				
	設定理由	学生の満足度により SPARC 教育の成果を測る。なお、調査は R7 開始の正課科目に対する学生調査による。				
	<p>【5-5】 社会のニーズやデジタル化推進人材育成等に対応した教育となるよう大学院を再編する。</p>	<p>【5-5】</p> <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>学部だけでなく、大学院においてもデジタル人材の育成に取り組む。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	学部だけでなく、大学院においてもデジタル人材の育成に取り組む。
	現状値	—				
	設定理由	学部だけでなく、大学院においてもデジタル人材の育成に取り組む。				
<p>【6-1】 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組を学生教育に活かすため、研究所の取組への学生参画を進め、参画する学生数を 1 年間で延べ 200 人にする。</p>	<p>【6-1】</p> <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>— (参考：R5 は 170 人程度 (見込み))</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組成果を学生教育に活かす。</td> </tr> </table>	現状値	— (参考：R5 は 170 人程度 (見込み))	設定理由	子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組成果を学生教育に活かす。	
現状値	— (参考：R5 は 170 人程度 (見込み))					
設定理由	子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組成果を学生教育に活かす。					
<p>【6-2】 幼稚園教諭・保育士の養成学科等の設置に係る検討結果を踏まえ、目標を定め、必要な取組を実施する。</p>	<p>【6-2】</p> <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>幼児教育・保育の人材育成を行うことで、人材確保に貢献する。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	幼児教育・保育の人材育成を行うことで、人材確保に貢献する。	
現状値	—					
設定理由	幼児教育・保育の人材育成を行うことで、人材確保に貢献する。					

中期計画	評価指標	備 考														
<p>(4) 真に地域が必要とする人材の育成に向けた教育の推進</p> <p>【7】産学公の連携拠点として令和6年度に新1号館3階に産学交流スペース、研究成果発信スペース、地域共生センターを設置し、これら拠点を中心に地域ニーズを収集し、学外組織と連携したPBLや専門インターンシップ、アントレプレナーシップ等の地域と連携した教育を充実させる。</p> <p>【15：再掲】 本学の学術情報の基盤並びに地域における知の拠点としての機能強化を目指して、図書館等の体制・仕組み等を再整備し、研究をはじめ、教育・地域連携に関する学術情報資源の保存・活用・発信等の機能の充実・強化を図る。</p> <p>(5) 教育の質の保証・向上</p> <p>【8】入学から卒業・修了後まで一貫した調査・分析を行い、その結果を教育、学生支援及び入試の改善に活かすこと（エンロールマネジメント）ができるよう、全学的なIR方針のもとで教学IR方針を定めるとともに、必要な体制を構築する。また、全ての学部・研究科で学修成果を可視化し公表する。</p>	<p>【7-1】学外組織と連携したPBLや専門インターンシップ、アントレプレナーシップ等、地域と連携した取組を行う科目の内容を、毎年すべての学科・研究科で1件以上充実・改善する。</p> <p>【7-2】学外組織と連携したPBLを年間30件実施する。</p> <p>【15-1：再掲】 図書館の入館者数を、48,000人に増やす。 (※R9-11平均で評価)</p> <p>【8-1】教学IRの方針を策定し、必要な体制を構築・機能させたことによる教学マネジメントの改善を、累計5件行う。</p> <p>【8-2】学部における学修ポートフォリオの活用率(活用した学生数/全学生数)を</p>	<p>【7-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 347 2083 512"> <tr> <td>現状値</td> <td>－(参考：2学科で企業と連携したPBLを実施中)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>地域と連携した教育の充実を、継続的に行っていく。</td> </tr> </table> <p>【7-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 592 2083 756"> <tr> <td>現状値</td> <td>9件(R3-5平均値)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現在、地域共生センターやSPARCの取組により調整しているPBLを中心に、件数を大幅に増やす。</td> </tr> </table> <p>【15-1：再掲】</p> <p>【8-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 1123 2083 1249"> <tr> <td>現状値</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1件程度ずつ改善を行う。</td> </tr> </table> <p>【8-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 1329 2083 1370"> <tr> <td>現状値</td> <td>50%(R5：推定)</td> </tr> </table>	現状値	－(参考：2学科で企業と連携したPBLを実施中)	設定理由	地域と連携した教育の充実を、継続的に行っていく。	現状値	9件(R3-5平均値)	設定理由	現在、地域共生センターやSPARCの取組により調整しているPBLを中心に、件数を大幅に増やす。	現状値	－	設定理由	R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1件程度ずつ改善を行う。	現状値	50%(R5：推定)
現状値	－(参考：2学科で企業と連携したPBLを実施中)															
設定理由	地域と連携した教育の充実を、継続的に行っていく。															
現状値	9件(R3-5平均値)															
設定理由	現在、地域共生センターやSPARCの取組により調整しているPBLを中心に、件数を大幅に増やす。															
現状値	－															
設定理由	R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1件程度ずつ改善を行う。															
現状値	50%(R5：推定)															

中期計画	評価指標	備 考										
<p>【9】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的にFD・SDを実施する。</p>	<p>80%にする。</p> <p>【8-3】すべての学部・研究科において学修成果を可視化し公表する。</p> <p>【9-1】学修者中心の教育を促進するため、体系化した初任者・中堅・管理職別のFD・SDを年間3回実施する。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1473 231 1630 965">設定理由</td> <td data-bbox="1630 231 2098 965"> <p>学修ポートフォリオ：学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自立的な学修をより深化させることを目的とする。</p> <p>ポートフォリオの活用：学生の学修振り返りと計画入力、教員からのフィードバックによる学修指導</p> </td> </tr> </table> <p>【8-3】</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1473 1034 1630 1077">現状値</td> <td data-bbox="1630 1034 2098 1077">－（現状：可視化の例あり）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1473 1077 1630 1161">設定理由</td> <td data-bbox="1630 1077 2098 1161">R6-7に仕組みを構築し、R8以降、順次可視化及び公表を行う。</td> </tr> </table> <p>【9-1】</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1473 1241 1630 1284">現状値</td> <td data-bbox="1630 1241 2098 1284">1回（R4）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1473 1284 1630 1327">設定理由</td> <td data-bbox="1630 1284 2098 1327">職位ごと1回ずつ実施する。</td> </tr> </table>	設定理由	<p>学修ポートフォリオ：学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自立的な学修をより深化させることを目的とする。</p> <p>ポートフォリオの活用：学生の学修振り返りと計画入力、教員からのフィードバックによる学修指導</p>	現状値	－（現状：可視化の例あり）	設定理由	R6-7に仕組みを構築し、R8以降、順次可視化及び公表を行う。	現状値	1回（R4）	設定理由	職位ごと1回ずつ実施する。
設定理由	<p>学修ポートフォリオ：学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自立的な学修をより深化させることを目的とする。</p> <p>ポートフォリオの活用：学生の学修振り返りと計画入力、教員からのフィードバックによる学修指導</p>											
現状値	－（現状：可視化の例あり）											
設定理由	R6-7に仕組みを構築し、R8以降、順次可視化及び公表を行う。											
現状値	1回（R4）											
設定理由	職位ごと1回ずつ実施する。											

中期計画	評価指標	備 考																
<p>【10】ステークホルダー（学生、保護者、高校等）の視点に基づいた理解しやすい教育結果や成果の周知・公開を行う。</p> <p>2 学生支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 学修者中心の学生支援の充実</p> <p>【11】ダイバーシティやインクルージョンを踏まえて学生支援方針を見直す。また、学園生活の環境をより良くするため、学生のニーズや視点を踏まえた施設整備・運用面の向上に取り組む。</p>	<p>【10-1】ステークホルダーへの各種調査において、教育内容に関する満足度を 3.5 以上に向上させる。(満足度は 1-5 の 5 段階)</p> <p>【10-2】すべての学部・研究科において、ステークホルダーの視点をふまえた教育結果や成果の周知・公開を行う。</p> <p>【11-1】新たな学生支援方針のもとで、累計 10 件の学生支援の改善を行う。</p> <p>【11-2】学園生活の環境改善のため、学生宿舍の整備を行う。</p>	<p>【10-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 304 2083 432"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6-7 に調査方法を検討し実施。標準以上の評価を目指す。</td> </tr> </table> <p>【10-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 512 2083 679"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6 に周知・公表の方法を検討 R7 以降、順次周知及び公開を行う。</td> </tr> </table> <p>【11-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 919 2083 1046"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6 に新しい方針を整備し、その後、年平均 2 件ずつ改善を行う。</td> </tr> </table> <p>【11-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 1126 2083 1334"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R7 中の完成及び入居開始を目指して整備を行い、その後は利用及び運用の改善に取り組む。 ※現行の学生寮は R5 末閉鎖</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	R6-7 に調査方法を検討し実施。標準以上の評価を目指す。	現状値	—	設定理由	R6 に周知・公表の方法を検討 R7 以降、順次周知及び公開を行う。	現状値	—	設定理由	R6 に新しい方針を整備し、その後、年平均 2 件ずつ改善を行う。	現状値	—	設定理由	R7 中の完成及び入居開始を目指して整備を行い、その後は利用及び運用の改善に取り組む。 ※現行の学生寮は R5 末閉鎖
現状値	—																	
設定理由	R6-7 に調査方法を検討し実施。標準以上の評価を目指す。																	
現状値	—																	
設定理由	R6 に周知・公表の方法を検討 R7 以降、順次周知及び公開を行う。																	
現状値	—																	
設定理由	R6 に新しい方針を整備し、その後、年平均 2 件ずつ改善を行う。																	
現状値	—																	
設定理由	R7 中の完成及び入居開始を目指して整備を行い、その後は利用及び運用の改善に取り組む。 ※現行の学生寮は R5 末閉鎖																	

中期計画	評価指標	備 考																
<p>【12】学修者の成長を促し、学修者中心のキャンパスづくり、SDGs を視野に入れたキャンパスづくり等を目指すため、学生が教職員とともにキャンパス運営に参画する仕組みを構築し、本学の取組を広く周知する。</p> <p>(2) キャリア教育の充実、県内定着の促進</p> <p>【13】大学入学時からのキャリア教育が就職支援につながるように教育上の仕組みを見直すとともに、就職に関する調査・分析・情報提供の仕方も見直し、学生のライフデザイン・キャリアデザインの力を向上させ、学生への就職支援の充実を図る。また「YFL」「YFL キャリア」(やまぐち未来創生リーダー)人材認定を行い、地域を共創していく力のある学生を輩出する。さらに、その取組を県内企業に広く周知するなど、県内定着に向けた就職支援を実施する。</p>	<p>【12-1】キャンパス運営に参加し、認定証等の発行を受ける年間学生数を10人にする。</p> <p>【13-1】就職対策講座・就職ガイダンス等やインターンシップ・就業体験等の参加者、キャリアカウンセリングの延べ利用者数を、年間3,000人以上にする。(※R9-11平均で評価)</p> <p>【13-2】学内外で開催される就職説明会や相談会、キャリアフェア参加者数を、年間70人以上にする。</p> <p>【13-3】「YFL」「YFL キャリア」を、累計200人認定する。また、その成果を公表する。</p>	<p>【12-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 304 2085 472"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1-2委員会等への学生参画を目指す。</td> </tr> </table> <p>【13-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 584 2085 671"> <tr> <td>現状値</td> <td>2,850人 (R3-5平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>5%程度の増加を目指す。</td> </tr> </table> <p>【13-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 831 2085 959"> <tr> <td>現状値</td> <td>34人 (R3-5平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>各学科との連携を強化し、倍増を目指す。</td> </tr> </table> <p>【13-3】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1031 2085 1358"> <tr> <td>現状値</td> <td>9人 (R2-4平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>より取得しやすいよう制度を見直し、最終的に5-6人に1人程度が取得できるようにする。 「YFL」=現行カリキュラムによる認定 「YFL キャリア」=R7からのカリキュラムによる認定</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1-2委員会等への学生参画を目指す。	現状値	2,850人 (R3-5平均)	設定理由	5%程度の増加を目指す。	現状値	34人 (R3-5平均)	設定理由	各学科との連携を強化し、倍増を目指す。	現状値	9人 (R2-4平均)	設定理由	より取得しやすいよう制度を見直し、最終的に5-6人に1人程度が取得できるようにする。 「YFL」=現行カリキュラムによる認定 「YFL キャリア」=R7からのカリキュラムによる認定
現状値	—																	
設定理由	R6に仕組みを構築し、R7以降、毎年1-2委員会等への学生参画を目指す。																	
現状値	2,850人 (R3-5平均)																	
設定理由	5%程度の増加を目指す。																	
現状値	34人 (R3-5平均)																	
設定理由	各学科との連携を強化し、倍増を目指す。																	
現状値	9人 (R2-4平均)																	
設定理由	より取得しやすいよう制度を見直し、最終的に5-6人に1人程度が取得できるようにする。 「YFL」=現行カリキュラムによる認定 「YFL キャリア」=R7からのカリキュラムによる認定																	

中期計画	評価指標	備 考																
<p>(3) 学生支援の質の保証・向上</p> <p>【8:再掲】入学から卒業・修了後まで一貫した調査・分析を行い、その結果を教育、学生支援及び入試の改善に活かすこと（エンロールマネジメント）ができるよう、全学的な IR 方針のもとで教学 IR 方針を定めるとともに、必要な体制を構築する。また、全ての学部・研究科で学修成果を可視化し公表する。</p> <p>【9:再掲】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的に FD・SD を実施する。</p> <p>3 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 研究業績の蓄積、成果の発信</p> <p>【14】特色ある学術研究活性化のために、領域の垣根を超えた学際的な研究並びに地域連携事業等の基盤となる研究の活動を支援する。</p>	<p>【13-4】新規卒業生の県内就職割合を 50% 超とする。(※R9-11 平均で評価)</p> <p>【8-4】教学 IR の方針を策定し、必要な体制を構築・機能させたことによるエビデンスに基づいた学生支援の改善を、累計 5 件行う。</p> <p>【9:再掲】学修者中心の学生支援を促進するため、初任者・中堅・管理職別の FD・SD を年間 3 回実施する。</p> <p>【14-1】学際的研究グループへの学内助成金支援を、毎年 1 件実施する。(※R9-11 平均で評価)</p>	<p>【13-4】</p> <table border="1" data-bbox="1476 304 2080 432"> <tr> <td>現状値</td> <td>41.5% (R2-4 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>県の総合計画に掲げる 50%超を目指す。</td> </tr> </table> <p>【8-4】</p> <table border="1" data-bbox="1476 552 2080 679"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6 に仕組みを構築し、R7 以降、毎年 1 件程度ずつ改善を行う。</td> </tr> </table> <p>【9-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 879 2080 967"> <tr> <td>現状値</td> <td>1 回 (R4)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>職位ごと 1 回ずつ実施する。</td> </tr> </table> <p>【14-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 1126 2080 1334"> <tr> <td>現状値</td> <td>1 件 (R3-4 学術研究推進共同体の平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>学際的研究活動の掘り起こし及び助成金による支援を継続して行う。</td> </tr> </table>	現状値	41.5% (R2-4 平均)	設定理由	県の総合計画に掲げる 50%超を目指す。	現状値	—	設定理由	R6 に仕組みを構築し、R7 以降、毎年 1 件程度ずつ改善を行う。	現状値	1 回 (R4)	設定理由	職位ごと 1 回ずつ実施する。	現状値	1 件 (R3-4 学術研究推進共同体の平均)	設定理由	学際的研究活動の掘り起こし及び助成金による支援を継続して行う。
現状値	41.5% (R2-4 平均)																	
設定理由	県の総合計画に掲げる 50%超を目指す。																	
現状値	—																	
設定理由	R6 に仕組みを構築し、R7 以降、毎年 1 件程度ずつ改善を行う。																	
現状値	1 回 (R4)																	
設定理由	職位ごと 1 回ずつ実施する。																	
現状値	1 件 (R3-4 学術研究推進共同体の平均)																	
設定理由	学際的研究活動の掘り起こし及び助成金による支援を継続して行う。																	

中期計画	評価指標	備 考				
<p>【15】 本学の学術情報の基盤並びに地域における知の拠点としての機能強化を目指して、図書館等の体制・仕組み等を再整備し、研究をはじめ、教育・地域連携に関する学術情報資源の保存・活用・発信等の機能の充実・強化を図る。</p> <p>【16】 研究創作活動の成果発表等の活動を支援し、学術成果（論文等）の質並びに量を向上する。また、研究創作活動の学術成果を地域社会等に積極的に情報提供する。</p> <p>【17】 科学研究費及び外部研究助成金等の獲得を支援し、研究創作活動推進のための外部資金獲得を維持・向上する。</p>	<p>【14-2】 地域連携基盤研究への学内助成金支援を、累計 18 件実施する。</p>	<p>【14-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 268 2078 475"> <tr> <td>現状値</td> <td>2 件 (R2-4 研究創作活動助成大地共創研究型研究件数の平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>地域連携基盤研究の掘り起こしにより件数を増加させ、助成金による支援を継続して行う。</td> </tr> </table>	現状値	2 件 (R2-4 研究創作活動助成大地共創研究型研究件数の平均)	設定理由	地域連携基盤研究の掘り起こしにより件数を増加させ、助成金による支援を継続して行う。
	現状値	2 件 (R2-4 研究創作活動助成大地共創研究型研究件数の平均)				
	設定理由	地域連携基盤研究の掘り起こしにより件数を増加させ、助成金による支援を継続して行う。				
	<p>【15-1】 図書館の入館者数を、48,000 人に増やす。(※R9-11 平均で評価)</p>	<p>【15-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 547 2078 635"> <tr> <td>現状値</td> <td>45,250 人 (R3-4 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>毎年 1 %程度の増を目指す</td> </tr> </table>	現状値	45,250 人 (R3-4 平均)	設定理由	毎年 1 %程度の増を目指す
	現状値	45,250 人 (R3-4 平均)				
	設定理由	毎年 1 %程度の増を目指す				
	<p>【16-1】 研究創作活動の学術成果（論文等）の発表を、累計 450 件以上実施する。</p>	<p>【16-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 786 2078 954"> <tr> <td>現状値</td> <td>69.3 件 (R2-4 論文発表 (共著含む) の平均件数)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>年平均 75 件実施する。(現状値より 10%程度増)</td> </tr> </table>	現状値	69.3 件 (R2-4 論文発表 (共著含む) の平均件数)	設定理由	年平均 75 件実施する。(現状値より 10%程度増)
	現状値	69.3 件 (R2-4 論文発表 (共著含む) の平均件数)				
	設定理由	年平均 75 件実施する。(現状値より 10%程度増)				
	<p>【16-2】 研究創作活動の学術成果に関する大学から社会への記者会見等による公表を、累計 10 件以上実施する。</p>	<p>【16-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1034 2078 1121"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>年 1-2 件実施する。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	年 1-2 件実施する。
	現状値	—				
	設定理由	年 1-2 件実施する。				
<p>【17-1】 科学研究費による研究創作活動を、累計 148 件実施する。</p>	<p>【17-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1193 2078 1361"> <tr> <td>現状値</td> <td>23 件 (R3-5 科研費 (新規+継続+延長) による研究活動の実施件数)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現状値から漸増し、最終年度には全国レベル以上の採択率を目指す。</td> </tr> </table>	現状値	23 件 (R3-5 科研費 (新規+継続+延長) による研究活動の実施件数)	設定理由	現状値から漸増し、最終年度には全国レベル以上の採択率を目指す。	
現状値	23 件 (R3-5 科研費 (新規+継続+延長) による研究活動の実施件数)					
設定理由	現状値から漸増し、最終年度には全国レベル以上の採択率を目指す。					

中期計画	評価指標	備 考												
<p>(2) 研究の質の保証・向上</p> <p>【18】全学的な IR 方針の下で IR 等の仕組みを構築・運用し、研究と地域連携の質保証を充実する。</p> <p>【9：再掲】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的に FD・SD を実施する。</p> <p>4 地域貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 地域・企業等との共創の推進</p> <p>【19】産学公の連携拠点として、令和6年度より新1号館3階に産学交流スペース、研究成果発信スペース、地域共生センターを設置することから、これら拠点を利用して地域との交流を実施し、シンクタンク機能を果たすとともに、地域の健康や文化の進展を図る。</p>	<p>【18-1】IR等の仕組みを活用した活動の見直し・改善の取組みを、研究分野で累計5件実施する。</p> <p>【再掲：9】教職員の研究力・研究支援力の向上を図るため、研究に関するFD・SDを年間2回実施する。</p> <p>【19-1】新たに設置される地域連携スペースの利用者延人数を、累計10,000人とする。</p>	<p>【18-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 347 2080 475"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。</td> </tr> </table> <p>【9-3】</p> <table border="1" data-bbox="1476 550 2080 678"> <tr> <td>現状値</td> <td>2回（R4研究力向上に関するFD・SD実績）</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現在の実施状況を維持する。</td> </tr> </table> <p>【19-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 874 2080 1161"> <tr> <td>現状値</td> <td>—（参考：旧施設 Yucca のコロナ前 H31 と R5（見込）の平均約 1,273 人）</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>旧施設（Yucca）より機能強化されたことから、参考値の 30% 増となる毎年 1,600-1,700 人程度の利用を目指す。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。	現状値	2回（R4研究力向上に関するFD・SD実績）	設定理由	現在の実施状況を維持する。	現状値	—（参考：旧施設 Yucca のコロナ前 H31 と R5（見込）の平均約 1,273 人）	設定理由	旧施設（Yucca）より機能強化されたことから、参考値の 30% 増となる毎年 1,600-1,700 人程度の利用を目指す。
現状値	—													
設定理由	R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。													
現状値	2回（R4研究力向上に関するFD・SD実績）													
設定理由	現在の実施状況を維持する。													
現状値	—（参考：旧施設 Yucca のコロナ前 H31 と R5（見込）の平均約 1,273 人）													
設定理由	旧施設（Yucca）より機能強化されたことから、参考値の 30% 増となる毎年 1,600-1,700 人程度の利用を目指す。													

中期計画	評価指標	備 考								
<p>【20】新1号館の産学交流スペース、研究成果発信スペースを拠点とし、コーディネートを含めた相談支援の体制・仕組み等を充実・強化し、受託研究、共同研究等の地域連携事業等を推進する。また、地域連携事業の成果を可視化して地域社会に情報提供し、外部からの評価を得ることにより地域連携事業の好循環を図る。</p> <p>【7：再掲】産学公の連携拠点として令和6年度に新1号館3階に産学交流スペース、研究成果発信スペース、地域共生センターを設置し、これら拠点を中心に地域ニーズを収集し、学外組織と連携したPBLや専門インターンシップ、アントレプレナーシップ等の地域と連携した教育を充実させる。</p> <p>【15：再掲】本学の学術情報の基盤並びに地域における知の拠点としての機能強化を目指して、図書館等の体制・仕組み等を再整備し、研究をはじめ、教育・地域連携に関する学術情報資源の保存・活用・発信等の機能の充実・強化を図る。</p>	<p>【20-1】受託研究、共同研究等の地域連携事業を、累計168件実施する。</p> <p>【20-2】地域連携事業等の相談を、累計300件(延べ件数)実施する。</p> <p>【7-1：再掲】学外組織と連携したPBLや専門インターンシップ、アントレプレナーシップ等、地域と連携した取組を行う科目の内容を、毎年すべての学科・研究科で1件以上充実・改善する。</p> <p>【7-2：再掲】学外組織と連携したPBLを年間30件実施する。</p> <p>【15-1：再掲】図書館の入館者数を、48,000人に増やす。(※R9-11平均で評価)</p>	<p>【20-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 304 2085 472"> <tr> <td>現状値</td> <td>26件(R2-4受託研究、共同研究等の平均件数)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>年平均28件実施する。(現状値より10%程度増)</td> </tr> </table> <p>【20-2】</p> <table border="1" data-bbox="1476 552 2085 676"> <tr> <td>現状値</td> <td>－(参考：R5年度企業訪問見込み件数32件)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>年平均50件実施する。</td> </tr> </table> <p>【7-1：再掲】</p> <p>【7-2：再掲】</p> <p>【15-1：再掲】</p>	現状値	26件(R2-4受託研究、共同研究等の平均件数)	設定理由	年平均28件実施する。(現状値より10%程度増)	現状値	－(参考：R5年度企業訪問見込み件数32件)	設定理由	年平均50件実施する。
現状値	26件(R2-4受託研究、共同研究等の平均件数)									
設定理由	年平均28件実施する。(現状値より10%程度増)									
現状値	－(参考：R5年度企業訪問見込み件数32件)									
設定理由	年平均50件実施する。									

中期計画	評価指標	備 考																				
<p>(2) リカレント教育・リスキリング教育の推進</p> <p>【21】地域ニーズと受講者評価による見直しを行い、適切なリソース配分による効率化を図って、リカレント・リスキリング教育、履修証明プログラム等を地域に提供する。特に、専門性の強みを積極的に活用して、社会福祉士や精神保健福祉士、看護師、管理栄養士、幼稚園教諭・保育士、学校教諭などの専門職向けのキャリアアップ研修や、子ども家庭問題・特別支援、情報化やデザイン思考に関する研修等を実施する。</p> <p>(3) 地域貢献の質の保証・向上</p> <p>【18：再掲】全学的な IR 方針の下で IR 等の仕組みを構築・運用し、研究と地域連携の質保証を充実する。</p> <p>【9：再掲】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的に FD・SD を実施する。</p> <p>5 高大連携に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 附属高等学校等の県内高校との着実な連携</p> <p>【22】高校3年間プラス大学4年間で、特色ある教育を行い、山口県で活躍する人材を育成するため、附属高等学校を設置する。</p>	<p>【21-1】地域ニーズと受講者評価によりリカレント・リスキリング教育等のプログラムを見直し、累計120件実施する。</p> <p>【21-2】履修証明プログラムを新たに2コース開始する。</p> <p>【18-2：再掲】IR等の仕組みを活用した活動の見直し・改善の取り組みを、地域連携分野で累計5件実施する。</p> <p>【9-4：再掲】教職員の地域連携力・地域連携支援力の向上を図るため、地域貢献に関するFD・SDを年間1回実施する。</p> <p>【22-1】令和8年度に附属高等学校を設置し、地域活性化人材を育成するための特色あるカリキュラムによる教育を目標を定めて実施する。</p>	<p>【21-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 304 2080 512"> <tr> <td>現状値</td> <td>プログラム全体を見直すことから現状値なし (参考：R5 キャリアアップ研修 8件)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>毎年20件程度実施する。</td> </tr> </table> <p>【21-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 587 2080 715"> <tr> <td>現状値</td> <td>1コース(認定看護師教育課程で履修証明書を発行)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>今後、大学院を念頭に対象を拡大</td> </tr> </table> <p>【18-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 790 2080 917"> <tr> <td>現状値</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。</td> </tr> </table> <p>【9-4】</p> <table border="1" data-bbox="1473 992 2080 1077"> <tr> <td>現状値</td> <td>なし(R4)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>新たに毎年1回実施する。</td> </tr> </table> <p>【22-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1232 2080 1359"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>附属高等学校での教育を着実に実施する。</td> </tr> </table>	現状値	プログラム全体を見直すことから現状値なし (参考：R5 キャリアアップ研修 8件)	設定理由	毎年20件程度実施する。	現状値	1コース(認定看護師教育課程で履修証明書を発行)	設定理由	今後、大学院を念頭に対象を拡大	現状値	なし	設定理由	R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。	現状値	なし(R4)	設定理由	新たに毎年1回実施する。	現状値	—	設定理由	附属高等学校での教育を着実に実施する。
現状値	プログラム全体を見直すことから現状値なし (参考：R5 キャリアアップ研修 8件)																					
設定理由	毎年20件程度実施する。																					
現状値	1コース(認定看護師教育課程で履修証明書を発行)																					
設定理由	今後、大学院を念頭に対象を拡大																					
現状値	なし																					
設定理由	R6にIRの体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。																					
現状値	なし(R4)																					
設定理由	新たに毎年1回実施する。																					
現状値	—																					
設定理由	附属高等学校での教育を着実に実施する。																					

中期計画	評価指標	備 考																
<p>【23】大学の単位を修得した高校生が入学した場合の修業年限の通算制度の導入など、高大連携・接続を推進する。</p> <p>(2) 入試改革の実施</p> <p>【24】総合型選抜の導入などの入試改革を行い、本学のアドミッション・ポリシーに基づく学生獲得を行う。</p> <p>(3) 入試広報の充実</p> <p>【25】「地域活性化人材育成事業（SPARC）」及び「大学・高専機能強化支援事業」により入試広報を充実させ、県内高等学校を中心に、本学の魅力を広く発信する。</p>	<p>【23-1】高大連携事業を年 42 回に増加させる。</p> <p>【23-2】入学者に占める県内高校出身者の割合を 50%にする(※R9-11 平均で評価)</p> <p>【24-1】総合型選抜の受験校数を 25 校に増加させる。</p> <p>【25-1】高校訪問等を年間 25 件に増加させる。</p>	<p>【23-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 271 2078 518"> <tr> <td>現状値</td> <td>29 回 (R2-4 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>計画期間中、毎年度 2 回 (R2-4 の平均増加回数) ずつ実施回数を増やすとともに、令和 7 年度から情報社会学科(仮称)による高大接続事業を実施する。</td> </tr> </table> <p>【23-2】</p> <table border="1" data-bbox="1478 598 2078 805"> <tr> <td>現状値</td> <td>45.0% (R3-5 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>県内他大学の定員増など県内高校出身者の確保がより困難となる中、県と協力の上、現状を上回る 50%を目指す。</td> </tr> </table> <p>【24-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 917 2078 1125"> <tr> <td>現状値</td> <td>－ (総合型選抜は未実施。参考：R2-5 の学校推薦型選抜 (県内枠) の実績をもとに 11 件と推計)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R2-5 の学校推薦型選抜の実績を根拠に算出</td> </tr> </table> <p>【25-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 1204 2078 1364"> <tr> <td>現状値</td> <td>12.3 件 (R2-4 平均) ※R5 は超重点対応により 55 件程度実施</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>本学に入学する偏差値帯の高校数に加え、学校推薦型選抜で出願や</td> </tr> </table>	現状値	29 回 (R2-4 平均)	設定理由	計画期間中、毎年度 2 回 (R2-4 の平均増加回数) ずつ実施回数を増やすとともに、令和 7 年度から情報社会学科(仮称)による高大接続事業を実施する。	現状値	45.0% (R3-5 平均)	設定理由	県内他大学の定員増など県内高校出身者の確保がより困難となる中、県と協力の上、現状を上回る 50%を目指す。	現状値	－ (総合型選抜は未実施。参考：R2-5 の学校推薦型選抜 (県内枠) の実績をもとに 11 件と推計)	設定理由	R2-5 の学校推薦型選抜の実績を根拠に算出	現状値	12.3 件 (R2-4 平均) ※R5 は超重点対応により 55 件程度実施	設定理由	本学に入学する偏差値帯の高校数に加え、学校推薦型選抜で出願や
現状値	29 回 (R2-4 平均)																	
設定理由	計画期間中、毎年度 2 回 (R2-4 の平均増加回数) ずつ実施回数を増やすとともに、令和 7 年度から情報社会学科(仮称)による高大接続事業を実施する。																	
現状値	45.0% (R3-5 平均)																	
設定理由	県内他大学の定員増など県内高校出身者の確保がより困難となる中、県と協力の上、現状を上回る 50%を目指す。																	
現状値	－ (総合型選抜は未実施。参考：R2-5 の学校推薦型選抜 (県内枠) の実績をもとに 11 件と推計)																	
設定理由	R2-5 の学校推薦型選抜の実績を根拠に算出																	
現状値	12.3 件 (R2-4 平均) ※R5 は超重点対応により 55 件程度実施																	
設定理由	本学に入学する偏差値帯の高校数に加え、学校推薦型選抜で出願や																	

中期計画	評価指標	備 考	
<p>(4) 入学前教育・補習教育の推進</p> <p>【26】 高校の教育課程と大学の教育課程をつなぐ入学前教育・補習教育の推進を図る。</p> <p>(5) 入試の質の保証・向上</p> <p>【8:再掲】入学から卒業・修了後まで一貫した調査・分析を行い、その結果を教育、学生支援及び入試の改善に活かすこと（エンロールマネジメント）ができるよう、全学的な IR 方針のもとで教学 IR</p>	<p>【25-2】 県内 18 歳人口が減少する中、進学サイト閲覧数を維持する。(※R9-11 平均で評価)</p> <p>【26-1】 入学前教育・補習の対象者に対する受講割合 80%</p> <p>【8-5:再掲】 教学 IR の方針を策定し、必要な体制を構築・機能させたことによる入試改善を累計 3 件行う。</p>	<p>合格者が多い高校、競合する大学がある地域の高校等を考慮</p>	
		<p>【25-2】</p>	
		現状値	18.0 万 Pv (H30-R4 平均)
		設定理由	<p>県内 18 歳人口は、R2 12,848 人、R11 見込み 11,454 人(▲1,394 人、10.8%減)の中、1 人当たり平均の閲覧数を増加させる。</p>
		<p>【26-1】</p>	
		現状値	—
設定理由	<p>学校推薦型選抜合格者に英語の入学前教育は行っており受講割合（課題達成率）は 9 割程度と高いが（課題達成率は R4:平均 90.9%、R5:平均 88.4%）、今後導入する、国際文化学部 of 総合型選抜合格者に実施する数学の入学前教育や、入学後の補習科目の受講割合は実績がないため、基準を示しにくい。よって 80%という目標に向けて、徐々に増加する指標を設定した。</p>		
<p>【8-5】</p>			
現状値	—		
設定理由	<p>R6 は方針検討等を行い、R7 以降、2 年に 1 件の入試改善を目標とする。</p>		

中期計画	評価指標	備 考																
<p>方針を定めるとともに、必要な体制を構築する。また、全ての学部・研究科で学修成果を可視化し公表する。</p> <p>【9：再掲】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的にFD・SDを実施する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 大学DX及び大学経営IRの推進</p> <p>【27】必要に応じて組織体制を強化しつつ、働き方改革の推進及び将来的な成果実現に繋がるより良い職場環境の構築のため、大学DXを推進するとともに、データに基づく意思決定のため大学経営IRを推進する。</p> <p>2 教職協働活動の改善</p> <p>【28】教育研究の組織的・効率的・自立的な運営や、働き方改革の推進のため、委員会、専門会議、センター等の教職協働の体制並びに仕組み等を再検討し、教職協働活動の改善を図る。</p>	<p>【9-5】入試等に関するFD・SD(入試説明会学科説明検討会や高校訪問説明会も含む)を年3回に増加させる。</p> <p>【27-1】DXの取組を累計6件実施する。</p> <p>【27-2】大学経営に関し、データ分析・活用による意思決定支援を、累計5件行う。</p> <p>【28-1】戦略本部、委員会、専門会議、センター等の役割・所掌範囲を再点検し、教職協働活動の効率化のため、活動の見直しを行う。</p>	<p>【9-5】</p> <table border="1" data-bbox="1473 427 2085 517"> <tr> <td>現状値</td> <td>0回 (R4)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>2年ごとに1回ずつ増加させる。</td> </tr> </table> <p>【27-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 715 2085 804"> <tr> <td>現状値</td> <td>1件 (R5に1件実施)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>毎年1件のペースで実施する。</td> </tr> </table> <p>【27-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 922 2085 1046"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>R6にIR体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。</td> </tr> </table> <p>【28-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1165 2085 1254"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>教職協働活動の効率化を図る。</td> </tr> </table>	現状値	0回 (R4)	設定理由	2年ごとに1回ずつ増加させる。	現状値	1件 (R5に1件実施)	設定理由	毎年1件のペースで実施する。	現状値	—	設定理由	R6にIR体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。	現状値	—	設定理由	教職協働活動の効率化を図る。
現状値	0回 (R4)																	
設定理由	2年ごとに1回ずつ増加させる。																	
現状値	1件 (R5に1件実施)																	
設定理由	毎年1件のペースで実施する。																	
現状値	—																	
設定理由	R6にIR体制を整備し、R7以降1件ずつ実施する。																	
現状値	—																	
設定理由	教職協働活動の効率化を図る。																	

中期計画	評価指標	備 考																				
<p>3 人材の確保</p> <p>【29】 本学の将来を担う次世代人材を確保するため、教職員の人事評価方法並びに採用方法の制度の見直しと再整備を図る。また、その再整備の効果の可視化に努める。</p> <p>【9:再掲】教職員の業務遂行能力向上のため、計画的・体系的にFD・SDを実施する。</p> <p>4 大学情報の積極的な発信</p> <p>【30】 受験生や企業等、多様なステークホルダーへの訴求力向上のため、本学の各種活動に関する広報の戦略的な充実・強化、及び情報発信の仕組みを再構築する。</p> <p>5 同窓会や教育後援会等との連携強化</p> <p>【31】 様々な分野で活躍する卒業生をはじめ、在学生・教職員・教職員OB等と本学とのネットワークを構築し、連携を推進する。</p>	<p>【29-1】 教職員の評価制度及び採用方法の見直し・再整備を行い、人事評価制度については、評価結果を処遇等へ反映する仕組みを構築する。</p> <p>【9-6】 社会情勢の変化に柔軟に対応できる法人経営を実現するため、全教職員を対象に法令遵守や人権・ハラスメント、大学運営等に係る研修を毎年度実施し、毎年参加率 100%を目指す。</p> <p>【30-1】 大学ホームページの大規模改修及びSNSの戦略的運用のための仕組みづくりを行う。</p> <p>【30-2】 本学の各種活動に関してマスコミで取り上げられる年間件数を 150 件とする。(イベント単位で集計)</p> <p>【31-1】 卒業生、在学生、教職員、教職員OB等からなる校友会を設立し、様々な連携事業を実施する。</p>	<p>【29-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 309 2080 475"> <tr> <td>現状値</td> <td>評価結果を処遇等へ反映しない形で実施中</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>次世代人材の確保に資する人事評価制度、採用方法とする。</td> </tr> </table> <p>【9-6】</p> <table border="1" data-bbox="1473 552 2080 676"> <tr> <td>現状値</td> <td>80% (R4)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>全教職員の能力向上のため、全教職員の参加を目指す。</td> </tr> </table> <p>【30-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 833 2080 957"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>受験生や企業等、多様なステークホルダーへの訴求力向上を図る。</td> </tr> </table> <p>【30-2】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1034 2080 1123"> <tr> <td>現状値</td> <td>110 件 (コロナ禍以前の R1 実績)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>毎年 6-7 件の増を目指す。</td> </tr> </table> <p>【31-1】</p> <table border="1" data-bbox="1473 1241 2080 1366"> <tr> <td>現状値</td> <td>設立を検討中 (R5)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>大学の各種活動の発展のため連携を推進する。</td> </tr> </table>	現状値	評価結果を処遇等へ反映しない形で実施中	設定理由	次世代人材の確保に資する人事評価制度、採用方法とする。	現状値	80% (R4)	設定理由	全教職員の能力向上のため、全教職員の参加を目指す。	現状値	—	設定理由	受験生や企業等、多様なステークホルダーへの訴求力向上を図る。	現状値	110 件 (コロナ禍以前の R1 実績)	設定理由	毎年 6-7 件の増を目指す。	現状値	設立を検討中 (R5)	設定理由	大学の各種活動の発展のため連携を推進する。
現状値	評価結果を処遇等へ反映しない形で実施中																					
設定理由	次世代人材の確保に資する人事評価制度、採用方法とする。																					
現状値	80% (R4)																					
設定理由	全教職員の能力向上のため、全教職員の参加を目指す。																					
現状値	—																					
設定理由	受験生や企業等、多様なステークホルダーへの訴求力向上を図る。																					
現状値	110 件 (コロナ禍以前の R1 実績)																					
設定理由	毎年 6-7 件の増を目指す。																					
現状値	設立を検討中 (R5)																					
設定理由	大学の各種活動の発展のため連携を推進する。																					

中期計画	評価指標	備 考												
<p>【32】保護者との意見交換の取組等の充実を図り、教育後援会との連携を強化する。</p> <p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 自主財源の確保</p> <p>【33】自主財源を恒常的に確保するために、学外資金や寄附金の獲得の体制・仕組み等の強化を図るほか、新たな財源確保の方策を検討し、その構築に取り組む。</p> <p>2 予算編成の合理化と予算執行の適正化</p> <p>【34】予算執行率等のデータ分析を踏まえて合理的かつ戦略的な予算編成を行う仕組み等を再整備・強化するとともに、予算執行にあたっては予算執行状況の分析や検証を行い、実績額を抑える。</p>	<p>【32-1】保護者懇談会の参加人数（組数）を230人（組）に増やす。</p> <p>【33-1】新たな方策による自主財源確保の取組を累計6件実施する。</p> <p>【34-1】予算執行率等のデータ分析を踏まえて予算額を見直した事業の比率（＝予算額を見直した事業数／全事業数）を、累計100%とする。</p>	<p>【32-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 316 2080 523"> <tr> <td>現状値</td> <td>189人(組) (R5)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現状値の20%増を目指す。(参加人数は、学生1人につき保護者等が複数人参加しても「1組」としてカウントする)</td> </tr> </table> <p>【33-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 759 2080 842"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>毎年1件実施する。</td> </tr> </table> <p>【34-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 1002 2080 1168"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>分野ごとに見直しを行う等により、毎年10-20%ずつ見直しを行う。</td> </tr> </table>	現状値	189人(組) (R5)	設定理由	現状値の20%増を目指す。(参加人数は、学生1人につき保護者等が複数人参加しても「1組」としてカウントする)	現状値	—	設定理由	毎年1件実施する。	現状値	—	設定理由	分野ごとに見直しを行う等により、毎年10-20%ずつ見直しを行う。
現状値	189人(組) (R5)													
設定理由	現状値の20%増を目指す。(参加人数は、学生1人につき保護者等が複数人参加しても「1組」としてカウントする)													
現状値	—													
設定理由	毎年1件実施する。													
現状値	—													
設定理由	分野ごとに見直しを行う等により、毎年10-20%ずつ見直しを行う。													

中期計画	評価指標	備 考																
<p>第5 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>【35】 データを活用した意思決定に基づく法人経営を実現するため、自己点検・評価の仕組みを充実・強化するとともに、第4期中期計画の評価指標に基づきその達成状況を自己点検・評価する。さらに、自己点検・評価及び第三者評価の結果を大学運営に反映するとともに、大学ホームページから公表する。</p> <p>第6 その他の業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 施設設備の有効活用の促進</p> <p>【36】 県の「山口県立大学第二期施設整備計画」を経て整備された大学施設が地域における共創の拠点となるよう、本学施設及び設備の有効活用の促進を図るとともに、適切な維持管理、必要な整備を行う。</p> <p>2 安全衛生の向上</p> <p>【37】 教職員・学生にとって安心・安全・快適かつ環境に配慮したキャンパスの実現のため、新型コロナウイルス感染症の拡大の際に得た感染症対策の知見の継承、衛生委員会による巡視等の安全衛生活動の実施、指摘事項への対応を含む施設設備の適切な維持管理、必要な施設及び設備の整備を行う。</p>	<p>【35-1】 自己点検・評価及び第三者評価結果を大学ホームページ、大学要覧で公表する。</p> <p>【36-1】 本学の施設や設備の年間貸出件数を80件に増やす。</p> <p>【37-1】 新型コロナウイルス感染症の拡大時の学内の状況や、感染防止のためにとった対策、学びを継続するためにとった対策を記録としてまとめる。</p> <p>【37-2】 職場巡視において改善が必要と指示された事項について、対応率100%を維持する。(対応率=職場巡視において改善が必要と指示された件数のうち、必要な</p>	<p>【35-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 347 2078 435"> <tr> <td>現状値</td> <td>公表中 (R5)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>引き続き公表を行う。</td> </tr> </table> <p>【36-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 758 2078 845"> <tr> <td>現状値</td> <td>48.5件 (R3-4 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現状値から60%の増を目指す。</td> </tr> </table> <p>【37-1】</p> <table border="1" data-bbox="1478 1002 2078 1169"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>将来類似の出来事が起きた際の参考とするため、有効と考えられる対策や課題を後世に残す。</td> </tr> </table> <p>【37-2】</p> <table border="1" data-bbox="1478 1249 2078 1369"> <tr> <td>現状値</td> <td>100% (R2-4 平均)</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>引き続きすべての指示事項に対応する。</td> </tr> </table>	現状値	公表中 (R5)	設定理由	引き続き公表を行う。	現状値	48.5件 (R3-4 平均)	設定理由	現状値から60%の増を目指す。	現状値	—	設定理由	将来類似の出来事が起きた際の参考とするため、有効と考えられる対策や課題を後世に残す。	現状値	100% (R2-4 平均)	設定理由	引き続きすべての指示事項に対応する。
現状値	公表中 (R5)																	
設定理由	引き続き公表を行う。																	
現状値	48.5件 (R3-4 平均)																	
設定理由	現状値から60%の増を目指す。																	
現状値	—																	
設定理由	将来類似の出来事が起きた際の参考とするため、有効と考えられる対策や課題を後世に残す。																	
現状値	100% (R2-4 平均)																	
設定理由	引き続きすべての指示事項に対応する。																	

中期計画	評価指標	備 考												
<p>3 法令遵守及び危機管理</p> <p>【38】健全な大学運営を推進するために、定期的かつ持続的な法令遵守活動を実施する。指摘事項に対して迅速かつ的確に対応する体制並びに仕組み等を充実・強化する。</p> <p>【39】現代的で多様なリスクに適切に対応できるように、危機対応マニュアルの整備・見直しとともに業務継続計画（BCP）を策定する。</p> <p>【40】危機対応訓練の実施により、教職員の危機管理能力の向上とともに危機対応の仕組みの点検を図る。</p>	<p>措置等を完了した件数の割合)</p> <p>【38-1】定期的かつ持続的な法令遵守活動を実施するため、内部統制システムを構築し、継続的に検証・評価を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>【39-1】業務継続計画（BCP）を策定する。</p> <p>【40-1】教職員の危機管理能力の向上につながる訓練を、年2回以上開催する。</p>	<p>【38-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 349 2085 477"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>法令遵守による健全な大学運営を図る。</td> </tr> </table> <p>【39-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 552 2085 679"> <tr> <td>現状値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>現代的で多様なリスクに適切に対応できるよう BCP を策定する。</td> </tr> </table> <p>【40-1】</p> <table border="1" data-bbox="1476 754 2085 882"> <tr> <td>現状値</td> <td>1.3回（R2-4 平均）</td> </tr> <tr> <td>設定理由</td> <td>訓練回数が増による危機管理能力向上を図る。</td> </tr> </table>	現状値	—	設定理由	法令遵守による健全な大学運営を図る。	現状値	—	設定理由	現代的で多様なリスクに適切に対応できるよう BCP を策定する。	現状値	1.3回（R2-4 平均）	設定理由	訓練回数が増による危機管理能力向上を図る。
現状値	—													
設定理由	法令遵守による健全な大学運営を図る。													
現状値	—													
設定理由	現代的で多様なリスクに適切に対応できるよう BCP を策定する。													
現状値	1.3回（R2-4 平均）													
設定理由	訓練回数が増による危機管理能力向上を図る。													